



TITLE:

雑纂

AUTHOR(S):

CITATION:

雑纂. 日本外科宝函 1938, 15(1): 123-127

ISSUE DATE:

1938-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204902>

RIGHT:

雜 纂

在 歐 荒 木 講 師 通 信

(昭和12年11月25日發 同年12月17日着)

獨逸を引揚げて巴里へ参りました。日本學生會館に落付くことにしました。満員でしたので3日程宿屋で待つて今日やつと引越し、これで氣持も落付きましたので來週あたりからポツポツ病院の見學に出掛けたいと思つてゐます。

實は伯林からストックホルムへ行つて Olivecrona を見る豫定にしてゐました所、目下病氣で寢てゐるといふことですので、もうストックホルムはやめることにしました。伯林にはもう見たいと思ふ所もなく、従つて Olivecrona の病氣が癒る迄伯林にブラブラしてゐるのも勿體ないと思つたからであります。巴里の外科からどれ程學び得るかは見た上でないとわかりませんが、つまつてもつまらなくても兎に角來る1月中旬迄は巴里の外科を見るつもりでゐます。多少でも毛色の變つたものを見たいといふ氣持からです。

現在巴里に1人の知人もなく、それに言葉も不自由ですので巴里での勉強は可なり苦勞が要るものと覺悟してゐます。Aphasie の悲哀をつくづく感じますが、もうこゝが最後の場所ですから、こゝで一踏張りするつもりです。

歸りの切符は伯林で買ひました。1月30日ナポリ發の白山丸で3月4日神戸着といふ豫定になつて居ります。併し戦争の爲に香港、上海に寄港しないとすると多少早くなるかも知れません。

伯林では望月、柳兩教授、伊藤肇博士、竹林弘、桂重次(東北關口外科)其他外科關係の諸君に會ひました。藤原紫郎君とは旅行の期日が掛け違つて遂に會へませんでした。伯林へ着いた翌々日から Sauerbruch の胸腔外科の講習會が偶然あることを知り、5日間出席して非常に得るところがあり、大變幸運でした。伯林滞在1ヶ月の中最初の2週間は Sauerbruch、後の2週間は Tönnis を見て暮しました。Sauerbruch は日本人の間では非常に不評ですが、私は矢張り彼も偉い男だと可なり高く買つてゐます。Tönnis の脳外科は Cushing 流の踏襲以外に殆んど一歩も出て居らず、米國の一流の人達と伍する爲には恐らく今後尙10年を要するであらうと見てゐます。手術の技術はとにかくとして脳外科に關する頭腦的訓練が未だ不足だと思はれるからです。併し患者の數だけは米國の第一流の「クリニックス」にも比すべく仲々多數です。とにかく今にして私は市俄古の Bailey の下で5ヶ月勉強したことが如何に有益であつたかをつくづく感じます。これは獨逸のみならずどこの神経外科の「クリニックス」でも絶対に學び得ぬものであつたことを悟つたからであります。

München の神經病學會の折、Bailey にくつゝいて行つたお蔭で C. Bailey が獨逸で如何に尊敬されてゐるか、又學會の折如何に歓迎されたかは私が想像してゐた以上でした。學會の主人達に對する市長の招待宴に來賓として私も招かれましたが、其席上丁度隣りに坐つてゐた獨逸神經病學界の長老 Nonne 名譽教授から『これから獨逸もウント勉強して世界の腦外科をリードするのだ』と話されました。その覺悟や大いによろし、併し乍ら學問上のことは覺悟だけではいけないので、獨逸の腦外科が米國の「レベル」に達するだけでも尙今後10年の經驗を要するでせう。現在 Arteriographie 以外に獨逸の腦外科には何等新味はありません。その Arteriographie も現在のところではとても Ventrikulographie には及びません。むしろ不必要な操作であるとさへ感じてゐます。

「カルテ」などを見ても Bailey を知つてゐる者の眼には Neurologie の知識が如何にも淺いといふ感じがして矢張り「一般外科醫のやる腦外科」といふ印象を與へます。尤も Bailey は米國でもその點ではピカ一の偉物です。Bailey と今比較されては獨逸の連中も困るでせうが、この Clovis Vincent は元來が神經科醫から神經外科醫になつた人ですので傾向的に Bailey に似てゐるのではないかと想像してゐます。Allgemeiner Chirurg から Neurochirurg になる経路と Neurolog から Neurolochirurg になる経路と何れが優るかは、人によつても違ふでせうが、一般的に云つて如何か。Dandy は『絶対に前者たるべし、Neurolog が「メス」をとるなど尤ての外』といひ、Bailey は『後者の方がいい、一般外科の經驗などいくらあつても腦外科には有害無益』と云ひ、兩者正反對の立場を代表してゐます。「兩方の中間」を行くのが理想的でせうが、之は云ふべくして仲々實現出来ないことと思はれます。私等にしても又獨逸の連中にしても Dandy に左祖したいところですが、さて Bailey のやり方をよく知つて見ると仲々サウばかりも云つて仕舞へないと感じます。結局そういう兩極端の傾向の人が2人居るといふことが必要なのでせう。

獨逸に於ける醫學は上に一般外科だつたのですが、そしてその方面で矢張り獨逸へ來ただけのことはあつたと思ふのですが、打割つて云へば、期待した程のことはありませんでした。といふのが獨逸の外科はモウ大抵日本へ輸入されてゐるから左程にも感じなかつたのもありませう。唯、今にして考へられることは米國の外科がドンドン歐洲の外科を凌駕して行くのではないかといふことです。物質に恵まれ、平和に恵まれてゐる所に本當の文化が榮へるといふことをつくづく考へさせられます。その點で米國は現今世界唯一の恵まれた國でせう。

先般青柳講師より先生の御命令として『Frankfurt 國立實驗研究所發賣の舊「ツベルクリン」』を買つて歸るやうにとの手紙をうけました。色々の所で調べて見ましたがその様なものはありません。獨逸内で製造される細菌製劑及び血清類は Frankfurt 國立實驗研究所に於て『檢定』されその旨の貼紙がしてありますので多分その間違ひかと思ひます。それで Frankfurt で製造し

たものではありませんが Marburg でつくつて Frankfurt で検査した Alt-Tuberkulins (Koch)—「レツテル」を見ると一見 Frankfurt でつくつたかの如き「レツテル」が貼つてあります——50cc を Bayer 會社の手を経て購入（普通藥店からは買へません）し歸朝の時にもつて歸ることに致しました。唯恐れることは今後4ヶ間近くの期間内に悪くなりはいまいかと云ふことです。なるべく適當な保存の方法を講じるつもりではゐますが、果して如何いふことになるか保證出来ません。「シベリヤ」を通つて送ればいい譯ですがこれは多分輸入禁止品でせうからそれも出来ないと思ひます。出来れば日本に於ける Bayer 會社の支店を経て手に入れることが出来る筈ですから。別に高價なものではありませんから（正價にして50cc 約40圓、それを割引して27圓位にして貰ひました）もつと多量買つてもいいのですが上記の次第で保存の點に不安あり 50cc だけに止めました。

今回の日支事變のことは外國に居てもよく注意してゐます。9月紐育を發つ頃には駐支英國大使負傷當時で米國新聞の論調は日本人には非常に不愉快なものでした。獨逸へ入るとそれがガラリと變つて非常に親目的になつてゐますので少しも嫌な思ひをすることはありませんでした。佛國の新聞は東洋に關して大して關心をもつてゐない様です。とにかく海外に勉強に出てゐる吾等が如何に昂奮して見てもドウにもならず、むしろ落付いて勉強するのが私としては國の爲だと思ひますので、こちらに居る間は一生懸命に勉強するつもりです。それに1年半以上も故國を離れてゐる私には眞の事情はわかりませんから、外國人ともその様な問題について彼此議論したりすることは絶対に控へてゐます。

11 月 25 日 夜

Chisato Araki

la Maison du Japon Cité Universitaire Paris, France.

第拾回日本醫學會

昭和13年4月2, 3, 4ノ3日間日本醫學會ノ分科トシテ日本外科學會ハ

京大法經第一講義室

ニテ開催ノコト、ナリタル由、マタ會員中映畫ヲ日本醫學會ノ特設會場ニテ上映希望ノ方ハ
下記要項承知ノ上、京大病理學教室内清野謙次教授へ申込マレタシトノコトナリ。

記

1. 内 容 醫學に關する學術的映畫

映 畫 上 映 申 込 要 旨

1. 内 容 醫學に關する學術的映畫

1. フィルムのサイズ 16ミリ及標準型

尙御申込に際してはフィルムの題、卷數、全長、サイズ及有聲、無聲の別（無聲の場合は説明の要、不要）を明記し、同時に簡單なる内容説明書を御添附相成度候。

又時間の都合上或は フィルムの内容、長さ等により、全部若くは一部の上映御差控へ相願ふ
やも計り難く候へば豫め御諒承の程願上候。

以上

一金壹百圓也

右ハ故醫學博士福間三徳氏御遺族ヨリ外科寶函基金中へ

寄贈セラレタリ。

謹ミテ敬謝ノ意ヲ表ス。

昭和12年12月10日

猪子, 伊藤兩教授記念會

京都外科集談會 11 月例會

昭和12年11月20日(土)午後6時半ヨリ京大樂友會館ニ於テ開催、下記ノ臨床例報告、並ニ特別講演アリ盛會デアツタ。

臨床例

廻盲部放線狀菌ノ1例	吉 野 位
Empyema necessitatis ニ就テ	松 谷 太 郎
結核性空嚢上部狹窄症ノ1例	上 原 隆 雄
縦隔竇膿瘍ノ1例	竹 友 隆 雄
胃穿孔性腹膜炎ノ診斷ニ就テ	白 羽 彌 右 衛 門
腸間膜淋巴腺ノ _L プラスマチトーム ¹ カ	長 岡 浩 雄
睪丸内黃色葡萄狀菌増容素ノ研究	講 師 鬼 束 惇 哉

特別講演

性 _L ホルモン ¹ ニ就テ	醫學部講師 小 榮 博 士
--------------------------------------	---------------

京都外科集談會 12 月例會

昭和12年12月20日(月)午後6時ヨリ京大樂友會館ニ於テ開催、下記ノ臨床例報告、並ビニ特別講演アリ盛會デアツタ。

臨床例

放射線狀菌病ノ _L 線治療例	吉 野 位
下肢ノ榮養神經障礙ノ1例	竹 友 隆 雄
胃黴毒ノ1例	細 野 七 郎
小腸捻轉ノ1異例	細 野 七 郎
外科的疾患並ビニ其ノ手術的侵襲ニ於ケル _L ヴィタミン ¹ C代謝ニ就テ	村 上 治 朗
腦脚部腫瘍ノ1例 附；輸尿管硬膜吻合術ニ就テ	講 師 醫學博士 淺 野 芳 登

特別講演

_L ヴィタミン ¹ ニ就テ	農學部 近 藤 金 助 教授
-------------------------------------	----------------

會 員 動 靜

轉 居

京都市中京區西ノ京圓町停留所上ル東入ル	横 田 宗 正
三重縣志摩郡濱島町比賀醫院内	林 彌 一 郎